

平成25年度病虫害発生予報第12号

平成26年3月6日
鳥取県病虫害防除所

予報の概要

区分	農作物名	病虫害名	発生時期	予想発生量
普通作物	イネ	ばか苗病	平年並	平年並
		イネシンガレセンチュウ	平年並	少ない
果樹	ナシ	黒斑病	平年並	平年並
		ハダニ類	平年並	平年並
		カメムシ類	—	やや多い

気象予報（抜粋）

1か月予報（3月1日～3月28日：2月28日、広島地方气象台発表）

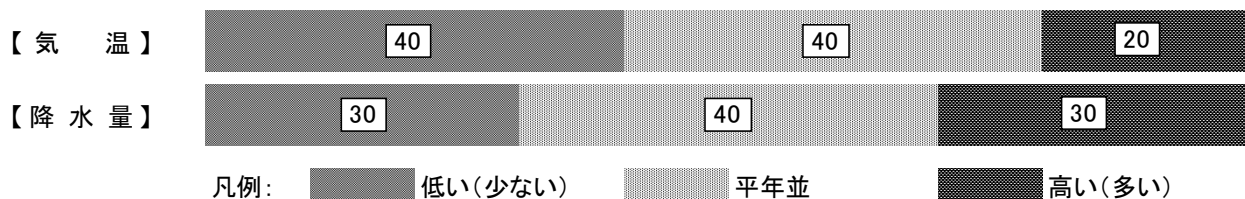
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨または雪の日が多いでしょう。

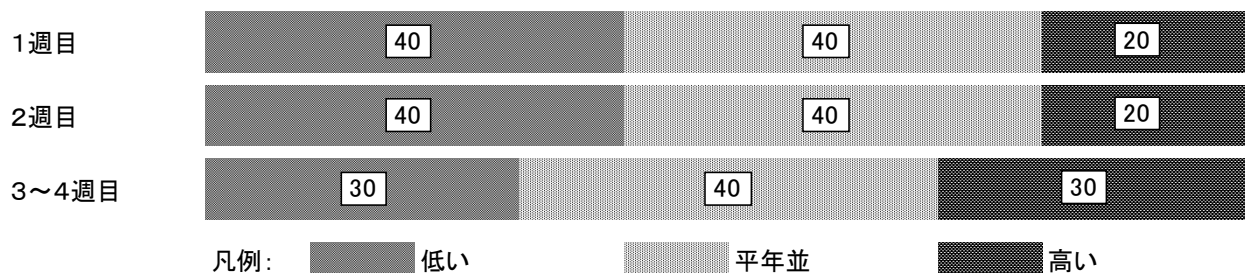
向こう1か月の平均気温は、平年並または低い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並または低い確率ともに40%です。2週目は、平年並または低い確率ともに40%です。

<向こう1か月の気温、降水量の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



普通作物

[イ ネ]

1 ばか苗病

(1) 予報の内容

発生時期 平年並(育苗期)

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

前年の発生は平年並であり、本年用種子の保菌率は平年並と推測される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 前年の発生ほ場から採取した籾は、種子として使用しない。

イ 塩水選及び種子消毒を徹底する。

ウ 温湯種子消毒にあたっては、消毒時間、温度などを厳守する。消毒後の種子を保管する場合には、種子を十分に乾燥させ、清潔な冷暗所に保管する。浸種を行う場合には、必ず水道水を使用し、適宜、水の交換を行う。

エ 薬剤による種子消毒(低濃度長時間浸漬)を行う際は、薬液がよく浸透するように網袋にゆとりをもたせる。また、薬液の温度が10℃以下にならないように注意する。消毒後の浸種は停滞水中で行い、水の交換は原則として行わないが、水温が高い場合など酸素不足になるおそれがあるときは静かに換水する。

2 イネシンガレセンチュウ

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 少ない

(2) 予報の根拠

前年の本虫による葉先枯れ症状の発生は非常に少なかったため、汚染籾率は低いものと推測される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 前年の発生ほ場から採取した籾は、種子として使用しない。

イ 塩水選及び種子消毒を徹底する。

ウ 温湯種子消毒については、ばか苗病に準じる。

エ 薬剤による種子消毒(低濃度長時間浸漬)の場合、ばか苗病防除薬剤と本虫防除薬剤の混用により同時防除が可能であるが、各薬剤の使用濃度が異なるので注意する。

果 樹

[ナ シ]

1 黒斑病

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 平成25年12月上旬に行った越冬菌密度調査の結果、短果枝の病芽率は平年と比べてやや低かった。また、一年枝上の枝病斑数はほぼ平年並であった。病枝率については、調査園全体の平均値は平年と比べてやや低かったが、一部

で病枝率の高い園が認められた。

イ 向こう1か月の気象予報から発生時期は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 3月中に枝病斑に対するトップジンMペースト原液による塗布作業を徹底して行う。特に、枝病斑は2～3年生部分の側枝に集中して形成されているので、側枝全体をよく見る。

イ 3月下旬～4月（発芽期～開花前）になると、芽の動きから病芽がはっきりと判別できるようになるので、この時期に園内を2～3回見回り、短果枝及び腋芽の腐れ芽を取り除く。

ウ 薬剤は、発芽期にアントラコール顆粒水和剤500倍液などを散布する。さらに、りんぼう脱落直前にデランフロアブル1,000倍液、開花始めにチウラム水和剤（トレノックスフロアブル又はチオノックスフロアブル）500倍液などを散布する。

2 ハダニ類

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 県内巡回調査園におけるハダニ類の越冬密度はやや少なかったものの、現地では平成25年秋期にハダニ類の発生密度が高い園がみられた。

イ 向こう1か月の気象予報から発生時期は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 枝、樹皮及び誘引なわ等に越冬成虫（あるいは越冬卵）が多く認められるナシ園では、春先の蕾や幼葉での被害が予想されるため防除を徹底する。

イ 防除は3月中旬にハーベストオイル50倍液を散布する。なお、発芽期にアントラコール顆粒水和剤を散布するナシ園では、ハーベストオイルとの散布間隔を10日以上あける。

3 カメムシ類

(1) 予報の内容

発生量 やや多い

(2) 予報の根拠

越冬世代にあたる平成25年の8月以降、予察灯における誘殺数がやや多かったことから、越冬密度もやや高いものと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 山際及び作業小屋周辺では、クサギカメムシ越冬成虫による幼果被害が懸念されるので、3月下旬までに果樹園内の小屋をきれいに清掃し、成虫を見つけ次第捕殺する。

イ 例年カメムシ類の発生が多い園では、4月以降、定期的にはほ場を見回るなどして、春先の発生程度の把握に努める。

[おしらせ]

農薬の使用に当たっては、農薬使用基準を遵守するとともに、周辺への飛散には十分注意しましょう。

農薬の詳しい登録内容は、独立行政法人 農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報検索システム」から検索できます。(http://www.famic.go.jp/)

なお、農薬の使用や防除指導等に際しては、農薬のラベルを必ず御確認ください。

<鳥取県病虫害防除所ホームページ>

アドレス <http://www.jppn.ne.jp/tottori/>

病虫害発生予察情報、フェロモントラップ調査結果（ナシのシンクイムシ類）などの参考情報、病虫害の診断方法などの情報をお知らせしていますので、ご利用下さい。

<お問い合わせ>

普通作物関係：〒680-1142 鳥取市橋本 260

鳥取県病虫害防除所

(TEL：0857-53-1345、E-mail：boujyot@titan.ocn.ne.jp)

もしくは

鳥取県農林総合研究所農業試験場環境研究室

(TEL：0857-53-0721、FAX：0857-53-0723)

果樹・野菜・花き関係

〒689-2221 東伯郡北栄町由良宿 2048

鳥取県農林総合研究所園芸試験場環境研究室

(TEL：0858-37-4211、FAX：0858-37-4822)

※次回平成26年度予報第1号の発表は、4月3日（木）の予定です。